

事業管理計画策定業務にシステムを活用した事例を紹介します。

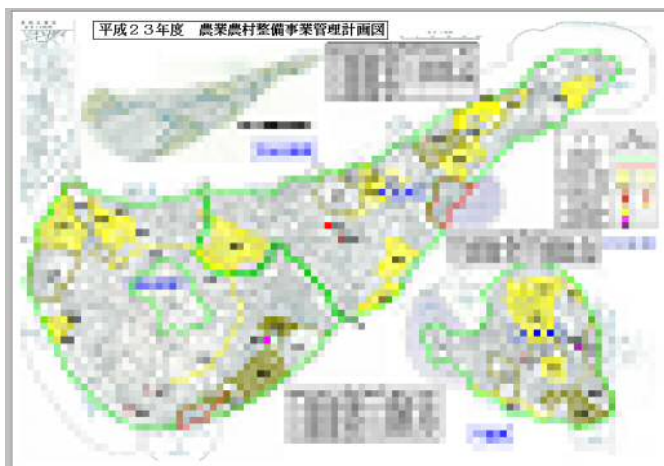
(1/2)

活用する団体： 県, 市町村

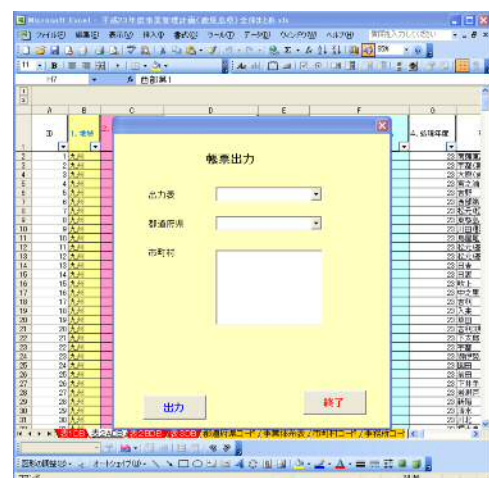
取組概要

内容：各事業の実績(年度進捗管理)や、今後の新規予定地区の計画策定等に活用している。また事業計画地区の関係受益地の管理も併せて活用している。

- 経緯：①従来は、市町村が各々紙媒体やグラフィックソフト(イラストレーターやフォトショップ等)、CADを用いて事業管理計画図面を作成していた。
- ②当該年度の管理地区のデータベースは県から指定されたExcelデータを修正後、県出先に送付し農村振興課にて県域をとりまとめていた。
- ③水土里情報システムを活用し、当該年度の事業管理地区をGISデータで作成することにより修正や図面出力を容易に行える。



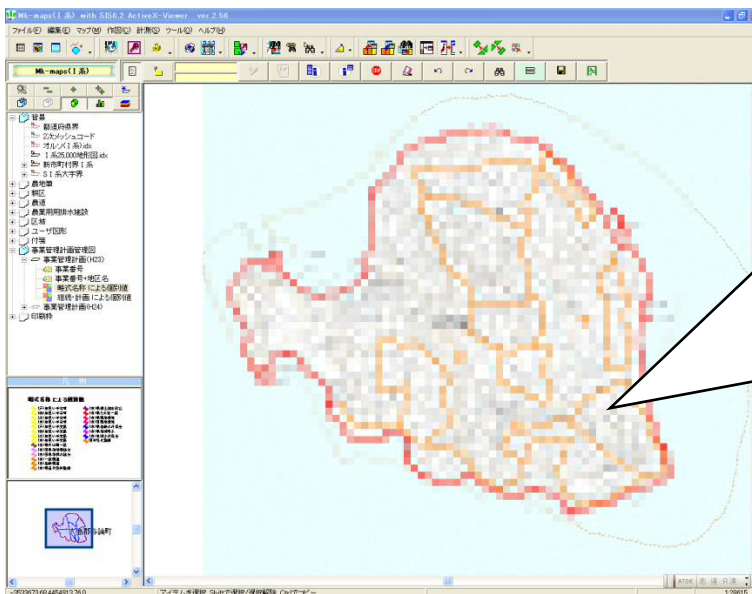
従来の紙媒体で作成された事業管理計画図



従来の事業管理計画Excelデータベース

期待される効果

- ①新規事業の要望地区の管理や、過年度事業の事業実績の把握が一元的に管理できる。
- ②新規採択希望地区の受益面積の算定や、受益戸数の把握等に活用できる。
- ③年度ごとにレイヤ(階層)管理することにより、当該地区の過年度の状況が容易に把握できる。



・事業管理地区の形状(点, 線, 面)をマップ上に表示することで、視覚的に把握が可能。

・事業管理地区をダブルクリックすることで、地区個別の属性情報を表示。



属性項目	値
ID	
管内名	
市町村名	
地区名	
地区名ふりがな	
事業主体	
事業番号	
事業体系(種)	
事業体系(目)	
事業体系(目種)	
事業体系(目種*)	
略式名称	
受益面積 (ha)	
概算総事業費(百万)	
主要工事名称(1)	
主要工事数量(1)	
主要工事単位(1)	
主要工事名称(2)	
主要工事数量(2)	
主要工事単位(2)	
主要工事名称(3)	
主要工事数量(3)	
主要工事単位(3)	

- ・翌年度以降は、新規地区の図形作成と、属性の新規入力が必要となる。
- ・属性の値により、地区の『新規』『継続』『完了』の区分が容易に行える。

今後の活用予定

地区管理は毎年度ごとの更新作業となるため更新のルールを定め、図面の体裁等を概ね統一するべく、システムの利用推進を図っていく予定である。